

核廃絶と脱原発をめざして ～北海道反核医師・歯科医師の会結成30周年に寄せて～

札幌市医師会
勤医協札幌西区病院

塩川 哲男

皆様は「核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会」（略称：北海道反核医師・歯科医師の会）をご存じですか？

第2次大戦後の米ソ冷戦で6万発に増大した核弾頭による戦争の脅威を前に、1980年に両国の著名な心臓専門医が呼びかけて、核戦争防止国際医師会議（IPPNW、International Physicians for the Prevention of Nuclear War）が発足、1981年から核戦争防止にむけて世界大会と地域会議が開かれ、日本では1982年に広島県医師会に同日本支部ができました。1985年にはノーベル平和賞を受賞しています。

わが国ではこの支部と別に、各地で反核医師の会を作ろうとの声が大きくなり、29の都道府県に設立されています。北海道では1989年6月4日、札幌市内で結成総会を開催、23名が参加し、会長に福地保馬北大教授（現名誉教授、労働衛生）を選出しました。それ以来30年、年1回の総会と記念講演会の開催、年2回の会報の発行、IPPNWの世界大会や地域会議への代表派遣、全国反核医師の会の大会・集会や北海道原爆死没者追悼会（毎年8月6日に札幌市内で開催）への参加などの事業を行ってきました。また、2004年と2013年には札幌で全国反核医師の会の集会「核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」を開催、それぞれ160名と210名が参加しています。今年の6月、30年にわたって本会を牽引されてきた福地先生に代わって上野武治（北大名誉教授、精神医学）が会長に選出されました。

発足30年を経て核兵器をめぐる情勢も様変わりしていますが、今なお米ロ英仏中の5大核保有国を中心に1万4,000発の核弾頭が存在し、テロや偶発的な核爆発の危険は去っていません。2017年7月、核兵器禁止条約が国連で採択され、現在までに34カ国が批准し、条約発効の50カ国に近づいています。昨年11月に来日したローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇が長崎と広島で行った演説は、核抑止論を正面から否定し、核兵器の非人道性と環境破壊をふまえ、核兵器禁止条約発効への不退転の決意を語ったものでした。しかし、唯一の戦争被爆国である日本がこの条約に反対し、発効を妨害していることは重大な問題です。わが国の条約批准を推し進めることは、私たち医学医療に関わるものの使命と考えています。

また、2011年の東日本大震災に伴う東京電力福島

第一原発事故をきっかけに本会も「脱原発」を活動の柱にすることを2015年の総会で決定し、規約も改正しました。北海道では泊原発の再稼働、幌延の放射性廃棄物処理研究施設使用の延長、青森県大間の原発建設など、3つの大きな問題に直面しています。本会としては、道民の生命と健康、生態系を守り、環境保全を重視する立場から脱原発にも積極的に取り組むと同時に、福島県民の健康被害についても関心を寄せていくつもりです。

現在、会には135名の医師・歯科医師が参加していますが、道内の先生方の約1%に過ぎず、中でも放射線被害を最も受けやすい若い先生や医学生（準会員）が少ないことも事実です。本会の事業はすべての先生方に賛同いただけるものであり、本会にお誘いする活動も重要な課題です。

こうした立場から、さる10月25日、私と上野会長、福原正和事務局次長の3人で長瀬清北海道医師会長を表敬訪問し、本会の活動の一端を紹介し、ご理解とご協力をお願いしました。長瀬会長は「核兵器賛成などという医者はいないはずだ」と力強く仰っていただきました。

人間が造り出した悪魔の兵器が初めて使われてから今年75年になります。被爆者の平均年齢は82歳を超えており、「生きているうちに核兵器の廃絶を」の願いを何としても実現するため、一人でも多くの先生が本会に入会され、社会的な責任を果たす活動に加わっていただくことを期待しています。

本会の詳細はホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

→ <http://northhankaku.web.fc2.com/>
事務局：

〒063-0061 札幌市西区西町北19丁目1-5
勤医協札幌西区病院医局内
TEL：011-663-5711



右から上野会長、長瀬会長、塩川